

Ⅲ. 研究開発単位Ⅰ：高校課題探究Ⅱ「総合人間科」

第1章

概要

三小田 博 昭

(1) 目的

課題研究を3年間継続して行うことで、ものごとの本質を捉え、既存の問題と潜在的な問題の発見を行い、論理的・多角的に考える力を育成する。そしてグローバル拠点での探究活動に繋げる。グローバルキャリアモデルのシンポジウムを通して、自己のキャリアパスに関する確固たるイメージを作り上げ、夢や目標を持ち、課題研究の質を深める。

《期待される成果》

国際バカロレアTOKの趣旨を取り入れることで、研究を掘り下げ批判的思考力を獲得できる。アンケート調査・聞き取り調査、分析を行うことにより、情報リテラシーやエビデンスに基づいた仮説の検証を行う能力が育成される。プレゼンテーションや討論を通して、論理的に思考する力、協調的にコミュニケーションをとる力、チームとして協同的に問題解決にあたる力を獲得できる。

《内容》

6つの領域で行う課題研究の目的は以下の通りである。

生命	医学・健康	人権と共生	生存・差別・障がい
自然と環境	地球・食糧・エネルギー	平和	紛争・民族・国際理解
心	教育・犯罪	文化	言語・芸術・表現



(2) 指導体制

全教員が関わる。各学年では高校課題探究Ⅱ「総合人間科」を中心に行う責任教員が中心となり指導計画や実施計画を立案する。研究はPBL (Problem Based Learning) に基づいて3年間継続して課題研究を行う。高校1年生では、PBLの基礎基本を学ぶためのPBL入門を徹底して行う。高校2年生になると生徒が6つの領域に分れ、仮説検証型の課題研究を開始する。中間研究発表会を随時実施する。高校3年生では、研究成果を論文にまとめ、研究成果を発表する。

(3) 既存教科との関わりとその成果

研究開発単位Ⅱで行なっている「協同的探究学習」を「課題探究Ⅱ」でも実施している。右図は、SGH研究開発実施前の高校3年生と、SGH開始後2年目の高校3年生と比較したグラフである。SGH研究開発後は、受検期を迎えた3年生であっても「様々な情報を関連づけながら協同して学習する意識が高まったことがわかる。一方で「暗記中心学習」の意識は3年生であっても高くない。(文責 三小田博昭)

